

タイトル	公衆トイレを創る			氏名	萩野谷 栄	
学校名	千葉県立 東葛飾	高等学校	美術・工芸	実施時間数	28 時間	
教材費	約2000円					

1. ねらい

- ①手仕事の世界に偏ることなく、公共性の高いデザインに取り組むことで、社会的視点に立ったデザインを考える機会にさせたい。
- ②「公衆トイレ」を通してユニバーサルデザインを理解し、老若男女、障害者、その他様々な人への配慮ができるようにさせたい。
- ③イメージしたものを、図面に描き、模型として表現できるようにさせ、空間認識力を高めさせたい。

2. 材料

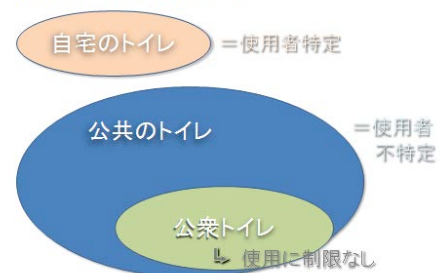
スチレンボード（主に3mm厚）、透明プラ板（0,2mm・0,5mm厚）、アクリルミラー板、1/50スケール人形、パネル（B3・A2・その他）、カッターナイフ、発泡スチロール用接着剤、ピンセット、方眼紙、その他必要なもの

3. 展開

(1) 公衆トイレとは何か？理解する

自宅のトイレは使用者が特定されているのに対し、公共のトイレはデパート・コンビニ・駅などだが使用者が不特定であり時間や使用には制限がある。公衆トイレは公共団体等が人の集まる所に設置するので使用に制限がない場合が多い、などの違いについても理解させる。

■公衆トイレとは何か？



(2) 公衆トイレの現状やイメージを認識する。

- ・汚い・暗い・暗い・怖い = 4K、
+壊れている = 5K
+紙がない = 6K
- ・身近にある公衆トイレを知る（スライド写真）
- ・身近な公共のトイレを知る（デパート、コンビニ、学校）
- ・学校のトイレに車椅子で入ってみる（体験）障害者用ではないトイレ、障害者用トイレ



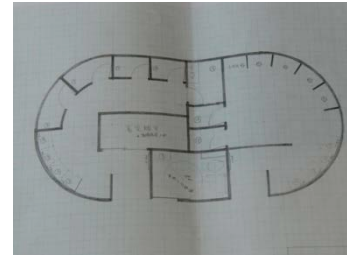
(3) コンセプト（設計理由）を考える

- ①設置場所を決める（実在する場所、架空の場所）
- ②どのようなトイレにするかを明確にする
- ③周囲との調和を考える
- ④ユニバーサルデザイン（できるだけ多くの人が利用可能であるようなデザインにすること）であること
 - ・どんな人でも公平に使えること（Equitable use＝公平性）
 - ・使う上で自由度が高いこと（Flexibility in use＝自由度）
 - ・使い方が簡単で、すぐに分かること（Simple and intuitive＝単純性）
 - ・必要な情報がすぐに分かること（Perceptible information＝分かりやすさ）
 - ・間違えても重大な結果に繋がらない（Tolerance for error＝安全性）
 - ・少ない力で効率的に、楽に使える（Low physical effort＝省体力）

- ・ 使うときに適当な広さがある (Size and space for approach and use=スペースの確保)
⇒誰でも簡単にどのような状況でも使えるトイレを考える
老若男女、障害者、健常者、いつでも使える (24 時間、災害時)

(4) 公衆トイレの計画と設計

- ・ コンセプト (設計理由) を 200 字程度に纏める
- ・ 2 点透視によるレンダリングを描く
- ・ 平面図・立面図 (1/50) を描く



(5) 公衆トイレの模型制作

- ・ 1/50スケール模型を制作 (屋根を取り外すと中が見えるように作る)



(6) 完成作品 (左図: 完成作品、右図: 屋根を外した状態)



4. 指導上の留意点

導入：生徒自身が建築の持つ社会性に興味や関心を持たせることが必要である。それを見越して、1年生の夏休みに、身近な所にある使い勝手の悪い公共物を、どのようにしたら解決するかをレポートさせる課題を課し、公共的なデザインを意識させつつ本単元に繋げる必要がある。

構想：公衆トイレを考えることは他者を考えることであり、環境を考えることである。将来、それぞれが置かれた立場の中で広い視野を持って仕事をする為のきっかけになるよう構想させる。

新指導要領では、「社会と工芸」という分野ができた。今後、生徒は社会的な視野に立って、使用する人や場などに配慮した機能と美しさを考え、制作をすることが重要となる。

5. 資料・参考文献

- ・ 建築設計資料「公衆トイレ」＝建築思潮研究所・編、建築資料研究社・発行
- ・ その他